

（表 3）意見文に見られる認識の変容過程

学習者	題 名	1 学習前に考えていたこと	2 教材の学習過程で気づいた「職業を通して生き方」	3 「職業と自分」について考えたこと
A	「仕事をやっていく中で…」	多くの人たちは収入のために就いた仕事を単に毎日している	（教材②から）自分の仕事に誇りを持っているのは、仕事をしていく中で人生観を見つけたからではないか	たとえ収入のため、生活のために就いた職業でもその中から新しい人生観を見つけだせたらいいと思う。最初からきっちりした人生観を持ち、自分の職業に誇りを持っている人は少ないのではないか。多くの人が仕事をしていく中で見つけ出したのだと思う。私も見つけられるよう努力したい。そして将来は自分の志向する理想社会に役立つ仕事に没頭できたらいいなと思う。
B	「仕事の意味」	やっていて楽しいもの、お金を稼ぐためのもの	（教材②から）辛いことを乗り越えてこそ真の楽しさや喜びを発見できるのではないか。また、人の役に立ち、しかも自分にとって生きがいのように感じられる仕事を持つことが大事なことはないか。	自分の考えていた「仕事」というものは、自分がやりたいことができ、楽しくて、自分のためのものという自分勝手な考え方を持っていたけど、この単元で仕事という物の本質的な意味を知ったような気がする、仕事というものは、辛いがそれを乗り越えたときの達成感、人のために働く喜び、誠意を持ってすれば必ずいい結果が生まれるという仕事に対しての誇りなど、いろいろな要素を含んだものだというを知った。将来自分が仕事に就くとき、少しでもこの理想に近づけるように働いていきたいと思った。
C	「職業の理想」	「生きるためにするもの」。それは自分の能力に自信がなく、その職業に就けるかどうかもわからないし、生活するために仕方なく自分の能力にあった職業に就かなければならないと思っていたから。	（教材②から）仕事上の悩みや苦労が絶えない人も、社会での自分の位置（役割）を見つけることによって自分の仕事に誇りを持ち、生きがいを感じている。	「仕事＝楽しみ」というのだけが理想だったし、そういう仕事にしか生きがいを感じられないと思っていた。でもこの単元学習を終えて、たとえ仕事を楽しむばかりでなくとも、苦労や悩みが絶えなくとも、その中から「生きがい」を見いだすことができるのだということを初めて知った。そして今は、その職業についての理由や目的は別にしても、自分だけが「生きる」ことを考えて仕事をするより、社会での自分の役割を見つけ、それに誇りを持って仕事する方が、生きがいのある仕事ができると思う。
D	「あなたの職業は？」	とりあえず、自分が生活していくのに必要なお金を稼ぐ手段であり、それに向かって毎日勉強しているが、こんなことを感じさせられる世の中が不安なもののように思っていた。	（教材②から）仕事には生活のためのものと生きがいのためのものがあることを知り、自分の生きがいだといえる職業を持てたら、自分の人生に十分満足ができるのではないか。職業はその人の人生を彩る模様のようなものであると思う。	その職業に自信を持って生きがいだといえるようになりたいと思う。たとえそれが何だとしても、それを決めるのは自分しかない。
E	「働くということ」	自分の存在を社会の中に確立することであり、単純に言えば働いてお金をもらうということで、そしてそれは人間がより人間らしくなれる一つの手段。	（教材①から）社会の中で働く女性の立場の狭さを確認し、男女が一緒に寄り添って生きるためには女性そのものが自立した存在になるべきと思った。 （教材②から）働く人は誰でも必ず誰かの役に立っているということがわかり、そのおかげで社会というものが成り立っていると思った。 （教材③から）家族を養うためにそして自分がより自分らしくあるために働き続けてきた親の姿を身にしみて感じることができた。	将来仕事を持ちたいと考えている私にとってこれから社会が女性でも男性でも同じように対処するものになってもらいたいと思う。そのためにも自分が働くということは結果的には誰かの役に立っているということをいつも心に思って、どんな職業に就いたにしろ、働くということにはこりを持っていたいと思う。
F	「職業＝お金＋生きがい」	職業＝生活のためにお金をもらう	（教材②から）職業はお金をもらうためだけのものでない。喜んでくれる人と分かち合う喜びや、自分が難しい修理をしたときの喜びが大きくて、さらに自分のやりたいことだからかなと思った。	私には今なりたい職業があるが、それはきっと生活するためにお金をもらうものだと思う。そんな時に「職業＝お金」だけではなく「職業＝お金＋生きがい」になればいいなと思う。仕事を始めてすぐできるものでもないと思うが、自分がなりたい職業をしていければ、いつかその仕事にお金以上の生きがいが感じられるのではないか。それを信じて今から自分の職業を目指したいと思う。